

第 8 回 新宿区基本構想審議会 議事概要

日時：平成 18 年 10 月 30 日（月）13 時 30 分～16 時

場所：区役所 5 階大会議室

出席者：委員 26 名

（凡例： 区民委員、 学識委員、 区議会委員、 事務局(区・コソル)）

議事：

1 基本構想・基本計画の大枠の考え方（起草部会案）について

2 新基本計画の施策体系（起草部会案）について

提示した体系案を基に、～ 章の A グループ、～ 章の B グループの 2 つの分かれて審議する。ただし、明確に議論する内容が分れるわけでもなく、各委員の発言機会を拡充することが目的であるので、それぞれその範囲に議論をとどめる必要はない。

- ・また、グループ別の議論は本日を含め 3 回実施するので、それぞれどちらのグループに参加するのはその都度決めていただければよい。

この基本構想・基本計画に沿って、新宿区がどこへ向かうのかのイメージが見えてこない。これは基本理念に表現されることになると思うが、今後は地球環境問題の中で自治体が何に取り組んでいくのかが大きなテーマであるという認識を個人的には持っている。

現段階では「めざすまちの姿」自体がまだできていないので、今後の議論の積み上げで魅力的な言葉を探していきたいと思う。ご意見として承り、各グループで是非発言をお願いしたい。

今回、基本構想を改定することになるが、その改定の背景を導入部分に記していく必要があるのではないかと。それを示すことで「めざすまちの姿」が見えてくるのではないかと。

- ・また、都市マスタープランと基本構想・基本計画の一本化について、現段階ではイメージがわいていない。基本構想審議会と都市計画審議会の合同会も開催されていない状況で、お互いの共通認識もできていない状況であるが大丈夫なのか。目標としてはどのあたりで基本構想・基本計画と都市マスタープランが一体化したもので議論できるようになるのか。

改定の背景については、本日の案では文章になっていないが、「めざすまちの姿」と大きな関連があり、次回の審議会に提案できるよう整理していきたい。

- ・基本構想・基本計画と都市マスタープランは目標が大きく異なることはあり得ない。一本化に向けて、前回の都市計画審議会後に内部で打合せを始めたところである。
 - ・次回の基本構想審議会が 11 月 14 日、都市計画審議会が翌 15 日に開催されるので、両会議の意見を基に、その次の会議で一本化のイメージについて提出したい。
- 今後の検討にあたり、一番上の「めざすまちの姿」が出てくれば、議論の方向性も見えてくるのではないかと。そのためには全ての分野を並列的に議論するのではなく、「めざすまちの姿」を見据え、分野の強弱を意識して議論を進めていくべきである。

そのように配慮して進行する。

資料 1 の基本計画の説明では、具体の事業については明示しないとなっているが、その意義は何か。方向性を明示する意味でも具体の事業はあった方がいいのではないかと。

- ・また、基本計画は柔軟に見直しや修正ができる計画とするとあるが、その主体は誰なのか。どういう仕組みで実行していくのか。

起草部会ではそこまで明示しないという形で案を提示しているが、意見として承った。

- ・見直しや修正の必要性についての共通認識は得られているが、その具体的な仕組みまでは議論できていない。行政の仕組みとして確立していくべきという方向性は示していきたい。また、実施

計画についても行政だけでつくるといふことにならないような仕組みを考えていく必要がある。

章のみ個別目標レベルに「子ども」という主体について述べられており、他の分野ではそれぞれ基本施策レベルで高齢者や障がい者などの主体について述べられている。一方で、「だれもが」という書きぶりであったり、特に主体について触れられていないものがあったりするが、これらについて何か意図はあるのか。

ライフサイクルの一つの段階として「子ども」を捉えており、子どもにもいろいろあるがそういった分け方はしていない。

- ・ うちの部分の基本施策で個別主体が掲げられているが、考え方としては、個別目標まではこうした個別の主体については書かないこととし、「だれもが」という表現にしている。
 - ・ その上で、「だれもが」を実現するためには、それが難しい層に対して積極的に手を打っていく必要があるといふことで、高齢者、障がい者などの主体が記載されているという趣旨である。
- 今後のグループ分けでの議論というものは、意見出しのための会議なのか、審議になるのか。それぞれの会議の結果についてはどのように扱っていくのか。

次回の審議会の冒頭に、各グループでの議論について報告をし、全員で論点等を確認する。それを共有してまたグループで議論するという形で繰り返し進めていきたい。なるべく多くの人の意見を吸い上げたいという趣旨であるので理解をいただきたい。

- ・ 各グループの議論は、審議会の本会議という認識で議論を進めていただければよい。

自らの意見をどちらのグループで発言するのがふさわしいのかの判断が難しい。

グループの分類は便宜的なものであるため、どちらの分野にまたがって発言してもらってもよい。

【A (~ 章) グループの議論】 (18 名)

< めざすまちの姿 >

まず「めざすまちの姿」に関する大きな部分から議論したい。

第3分科会では後半のテーマで「めざすまちの姿」について議論し、その姿は9つあっても足りないという感じであったが、議論の方向性としては、これまではハード、目に見えやすいものでまちの姿が組み立てられてきたが、今後は分断されていたものを生活者視点でとらえ直すといふことで、あまり一つのテーマに偏らない表現がよいのではないかという感じであった。

- ・ 一言で言うと、協働や市民参加型のまちづくりという考え方が根本にあって、その上で生活者視点のソフトやハードがあるという仕組みを模索したいという趣旨であった。

私が所属する地区協議会でも「めざすまちの姿」を議論し、将来のまちにとって大切なことに関するアンケートもしたが、最も多い回答や意見は「安心・安全」であった。この分野をキーワードに、将来の新宿のまちづくりを考えていくべきではないか。

- ・ また、もっと大きな範囲のことでは、地球環境問題に代表される環境問題というものもクローズアップしていくべきではないか。

環境については生活環境を重視していきたい。「安心・安全」とともに住みよい生活環境を実現することが重要ではないか。

基本的なスタンスは、行政にお任せではなく、住民が主体となって新宿の未来のまちをつくっていくという想いではないか。これまでは役所に任せておけばというスタンスでやってきたが、これからは自分たちで住むまちを自分たちの意見で、行政と共に創っていくという基本姿勢を出していくべきではないか。

- ・ その上で、「安心・安全」「住みやすいまち」「災害のないまち」などいろいろなテーマが並んでくるのではないか。提言書にもあるとおり、私たちの手でつくるといふ想いが大事である。

「安心・安全」の中で防犯を考えるにも、区民1人1人の参加でやっていかなければならない。また、防災もたくさんの人に参加してもらい、体験や交流を図っていくことが大事である。

- ・「わがまちをつくり、まもり、はぐくみ、いきる」といったイメージの言葉がよいのではないか。私が所属する地区協議会ではコミュニティを大事にしていくべきであると考えている。そのため「人を大切にするまちづくり」を掲げており、この中には「安心・安全」も「生活環境」も入ってくる。
- ・人と人から発展するコミュニティがまちを創っていく、そのためには自分たちが活動していけないといけない。「人を大切にする」ということを打ち出していく必要がある。基本理念がまだ打ち出されていないが、私はキーワードが2つあると考えており、「未来への責任」「行政の役割・責任」である。
- ・「未来への責任」は、自然環境を大切にしたり、世界平和に貢献したりする地球市民を育てるということと、新宿区の生活環境や生活文化を継承していくという責任の2つがある。
- ・「行政の役割・責任」については、基本構想の考え方などをみていると、その部分があまり強くない印象を受けたので強調していくべきであると思う。是非、弱者がきちんと過ごせるという視点をいれてほしい。障がい者、高齢者など、身体的・精神的に厳しい人も安心して過ごせるまちとしたらどうか。目標とその達成のための手段のどちらから議論するかによって方向性が変わってくる。目標をしっかりと打ち出した中で、方法を議論すべきではないか。6つの基本目標があるが、これ自体が「めざすまちの姿」なので、これを包括したものを「めざすまちの姿」に持って行けばいいのではないか。「安心・安全」は3番目の基本目標にあるので、抽象的になるかもしれないがそれよりも大きなイメージの方がよいのではないか。10年前に基本構想を改定したときと時代背景はかなりかわってきている。前はバブルの崩壊や都心の人口減少という問題があったが、今日では安心・安全、コミュニティの重要性などがクローズアップされており、今後10年を見据えると、環境問題や格差社会の問題がクローズアップされてくると思う。
- ・これらを包括する概念として、「住みたくなる、安心して住み続けられる」ということをキーワードとして考えていければよい。第3分科会での議論では、新宿区のいいものを引き継ぎ、バトンタッチしていくということが大事であり、その中で、コミュニティやまちそのものの姿があると考えた。これを実現していくためには、防災などまちを壊さないようにする取組み、コミュニティを壊さないようにする取組みなどが必要になってくるという考え方が大切ではないか。「めざすまち」がどのくらい先のまちとして捉えるかにもよるが、地方分権や都市内分権が進んだ中での新宿区を考えていかなければならない。基本目標の6つの柱とともにこの観点で「めざすまちの姿」を考えていかないと何もなくなってしまふ。
- ・その際、コミュニティがとても大事であり、地域のコミュニケーションからコミュニティができ、その上で行政との協働があり、これらの結果として参加型の区政のルールづくりといった形で発展していくのだと思う。「めざすまちの姿」については、区民会議が一生懸命議論してきた結果である提言書にあるような取組みを進めることで、区民が「夢や誇りをもてるまち」にしていくことが大切ではないか。この中に安心・安全、環境、防災なども含まれてくる。
- ・「めざすまちの姿」は区民にとってわかりやすいものがよい。「都市内分権」などの言葉はわかりにくいと思う。

わたしたちは区民会議で「区民が生活を楽しめるように」という想いで議論してきた。キャッチフレーズとしては「だれもが楽しく生活できるまち」がいいのではないかな。

区内の各地区は現状でもかなり異なるので、各地区に区民参加の拠点となる組織・拠点の充実が大事である。各地区にある既存の団体が、地域と密着した活動を展開していくのが難しい環境にある中で、地域が協働の精神で参加し合うようにしていくために、区民参加の拠点となる組織が必要になってくるのではないかな。

「めざすまちの姿」のキャッチフレーズはわかりやすく、短いものがよいと思うが、イメージがわかるように副題、サブタイトルをつけてはどうか。

私としては「にぎわい」が新宿の印象であり、一方で、住民としては「安らぎ」が大事であるので、「にぎわいと安らぎが調和したまち」ということが大事だと思う。住民の安らぎに歩調を合わせたにぎわいになっていかないといけないと思う。

- ・新宿は最先端の都市であると同時に高齢化も進んでおり、「成熟都市」という言葉を入れたらどうかと考えている。

区内でも外国人が多い地域では、ゴミ出し問題などで非常に困っている。指導したりお願いしたりするのは非常に難しく、子どもを通じて親にお願いするということが有意義であると感じている。その指摘は都市計画審議会でも議論されている。新宿の特徴はにぎわいであるが、住民もたくさんいる。その中で、どこに重点を置くのかという意見が都市計画審議会であった。

- ・「にぎわい」が重視なのか、「安らぎ」重視なのか。私は住んでいる人が快適でないとならないと考えている。にぎわいは住民、地元商店にプラスになるものではないといけない。なお、「生活と都市機能とが調和したまち」という表現が現行計画にもある。

新宿には住宅地や都市機能集積地など様々なまちの姿がある。「めざすまちの姿」はこれらすべてのまちの姿を包括するような言葉でないはずだと思う。

- ・既に各地区協議会からはまちづくりの方針が提出されているので、それらを見た上でよい文言が出てくればよいと思っている。

地区協議会のまちづくり方針で出した10地区の将来像をみると、どの地区協議会でも「にぎわい」だけでなく、「落ち着き、安らぎ」が共通項として掲げられている。ここが大切である。

<基本計画体系案について>

地区協議会の扱いが最大のテーマであると思うので、これについての方針を議論していく必要があるのではないかな。

地区協議会については、起草部会でも重要な論点として捉えており、各地区協議会で活動されている方が委員となっている本審議会では是非議論していただきたいと考えていたところである。

-2と3は「子育て」と「教育」で分かれているようであるが、3については学校教育が中心となるのでしっかりと「学校教育」を個別目標で打ち出した方がよい。そうすると-3-はそぐわなくなるので、別途個別目標の6としてはどうか。

私も一般的な子育てと学校教育は区分けした方がよいと思う。学校教育、家庭教育、社会教育と分けた場合、これらと子育てをどう関連づけていくか。

- ・また、-1-に子どもの人権尊重とあるが、これは-1-にも同様のことが書いてあり、重複している。これはどちらかに一本化し、子育てについてすっきりさせるべきである。

-2、3辺りの分け方については論点として取り扱っていくこととしたい。

自治については、都市内分権と併せてコミュニティについても個別目標に位置づけた方がよいのではないかな。章はすべての柱を支えるものであるため、これは個別目標にも入れていくべきである。

- ・また、多文化共生についてあるが、区民の約1割を占める外国人を積極的に捉えていくという視点で、現在の 章ではなく 章に移すことも含め考えていくべきである。

【B（～章）グループの議論】（8名）

<基本計画体系案について>

- 1 - 中の「ホンモノの文化・芸術」という表現について、本物が偽物であるかは個々の価値観によるところがあり、固定した判断基準があるとは思えない。

「ホンモノ」という言葉には第5分科会としてはこだわりを持っている。確かに現代社会では、本物が偽物かがわからないほど情報が流通しているが、長い歴史の中で淘汰されて自ずと残ったものは本物であるはずであり、それを見抜く眼力をわれわれはつけていく必要があるという意味で、提言書では「ホンモノ」と、あえてカタカナ表現にして使っている。

- 1 - 中の「新宿文化・観光コンベンション協会の創設」はどのような位置づけでどんな内容なのか。

基本施策の下の「 」の表現は、基本施策のイメージをわかりやすく伝えるために、より具体的な表現にした例示として理解いただきたい。

文化は誰も本物・偽物を決めることはできない。文化には、自ずと新宿に集まってくる人の中から「新宿文化」として生まれてくるものもある。文化は、時代の変遷の中で、文化として認識されるようになることもある。

- ・観光については、従来の観光資源に焦点を絞るだけでなく、商店街の人物も観光資源の1つであり、着目すべきであろう。

- ・「新宿文化・観光コンベンション協会の創設」という提案は、従来の行政中心の協議会ではなく、市民レベルの組織が必要という問題認識によるものと思われる。

「開発の時に緑化を増進するべきだ」という意見がある一方で、「今ある緑を残すことのほうが大事だ」という議論がある。開発なのか保全なのかは常に対立する議論であるが、区民提言を読むと、保全の色で貫かれている印象を受けた。基本計画の施策体系を検討する上では、こうした全体を貫く「保全」という考え方に、具体的なアイデアを色づけしていきたい。例えば、「区民の森」の提案は、区外に緑を活用して環境保全に寄与するよい提案である。

- ・現在は「持続可能」という言葉が福祉分野にも使用されているが、本来は保全型・調和型のまちづくりを表す言葉だと理解している。そうした意味では、の名称には「持続可能な都市づくり」という言葉を使わず、「みどり、環境、歴史、文化」などの言葉の方がよいのではないか。

- ・「目指すまちの姿」の検討においても、「持続可能な都市づくり」という観点が必要と感じる。生活者の視点からみると、身の周りの環境についてが不足している感じがする。環境と経済の融合の視点や新宿の地域特性を踏まえた開発や保全などのまちの姿が重要であり、都市マスタープランにきちんと環境やCO2の問題も取り込んでほしい。

- ・「環境教育の推進」は、基本施策「身近な水辺とみどりをいかしたまちづくり」の下に例示として位置づけられているが、美しいまちをつくることだけが目的ではなく、子どもたちに将来の地球環境や身近な環境を守るために地域、学校を通じて環境教育の輪を広げていくことが提案の趣旨なので、例示ではなく基本施策として別の柱にあげて欲しい。

自然環境に関する記述は と で重複しているが、 は全区的に行政が責任をもって取り組む内容を、 には地区レベルで区民と協働して取り組む内容という形で整理して書き分けている。このような整理をすることで、区が取り組むことをわかりやすく示すことができると考えている。

そうであるならば、 のタイトル「まちの記憶の再生と美しい新宿を創造するまち」は外からみた

客観的な表現に思えるので、もう少し自分たち区民の気持ち前面に出るような表現の方がよい。
基本施策 - 1 - 「地区のまちづくりを支えるしくみづくり」は、「区民が自治の主体として、考え、行動していけるまち」といった表現に比べると、言葉が不足しているように感じる。

- ・現在区が推進している「歩きタバコ防止対策」「ポイ捨て防止」は、基本施策 - 3 - に位置づけられているが、自転車に関する記述が、 - 1 - 「歩行者や市街地環境に配慮した適正な自転車利用の促進」だけで、- 3 - 「交通事故などのない安全なまちづくり」に記述がないのは誤解を招く恐れがある。「歩行者にやさしい自転車利用のマナーの徹底」などの記述の追加が必要である。マナーを守らず歩道を走る自転車が多く危険である。

個別目標 - 1 「都市活動を支える都市基盤を整備するまち」の最初の基本施策に「都市基盤施設の整備」が位置づけられていると、開発重視という誤解を受ける可能性がある。「水辺と森の再生」のような基本施策を先に位置づけた方がよい。

- ・基本目標 中の個別目標の順番について、 - 3 「歴史と自然を継承した美しいまちをつくる」が一番前に来て、 - 2 「ぶらりと道草したくなるまちづくり」が続くほうがよい。これらを実現する手段として、 - 1 「地域の個性を活かしたまちづくり」が続くのではないかと。
- ・文化財保護の推進は大切である。新宿で活躍した人々が我々の歴史の記憶から消えている。もう一度見直して発掘していくことは大事である。区民会議で文化が検討されたことは大変うれしく、重要なことと考えている。また、 中では、文化・歴史の章が先に来ており大変よい。商業者、商店街に関わる内容がいろいろなところに位置づけられており、商業者の立場から満足している。

- 2 「災害に備えるまち」のタイトルは、これから先、必ず大きな地震が起こることが予測されているので、「大震災に強いまちづくり」などのタイトルのほうがよいのではないかと。

- ・ - 3 - は「個性的で美しい景観づくり」とあるが、電線類地中化は区全体を目標としているのか、地域を限定しているのか、教えてほしい。

は地区単位の個性を重視するという意味で「個性」という言葉を使っている。地区により取り組むべき優先度に違いはあると思われるので、メニューとして電線類地中化を書いて、地区協議会などで議論してもらえばと考える。

第5分科会では、産業分野の話は、商業についてはカバーされているが、商業以外の伝統産業（印刷業、染色業）の記述が弱い。是非審議会でも補完していただきたい。

- ・新宿区のような稠密な都市で印刷業・染色業が生き延びるためには、多少なりとも行政支援が必要だと思われる。騒音の問題や後継者不足などがあり単独では難しい。新宿区は、これら2つの産業を伝統産業として認めているので、何かしらの形で支援する必要がある。
- ・ - 3 に「新しい伝統産業の再生」という形で入れられないだろうか。区民会議では、若者のまちとしてアートと「伝統産業」のコラボレーションを入れたが、検討は十分でなかったと考えている。「新宿ブランド」とは何かかわからない。区民会議では具体的な話があったのか。
- ・また、「歌舞伎町」の再生の話はどこに入っているのか？

新宿が持っているパワーは、都心であり若い人が集まるため、「アート」にあると思う。実際、新宿はアートに関する活動が活発である。こうした動きを伝統産業に結びつけて「新宿ブランド」ができないか、議論した。新宿区はアニメーションなど芸術系の専門学校が多いので、産学連携はできるのではないかと。

- ・歌舞伎町は、国や都など大きなレベルで動いていることもあり、分科会ではあまり議論しなかった。歌舞伎町ルネッサンスの会議を通じて、空きビルが増えており新宿区がテナントを見つけるのに苦慮しているという話は聞いていたが、われわれとしては手がつけられなかった。

神楽坂と染色業を結び付けて何とか「新宿ブランド」ができないか考えたことがあったが、染色業と印刷業が持っている歴史的・文化的なブランドとはどのように違うのか。

区民会議では、歴史的なブランドをどのように情報発信していくのか、その新しいアイデアを検討した。具体的には、江戸小紋と新しいデザインを重ねて情報発信していくことや、最近タイプベースの活字が注目を浴びつつあるので、葉書のデザインなどに活用する話が出た。

新宿の歴史的・文化的なブランドは神楽坂を探せばたくさん出てくるだろう。

染色業や印刷業についてはきちんと入れるべきだと思う。「染色」という文字として項目に入れるべきだ。地場産業として重要な産業である。

- ・産業分野においては、例えば練馬区のアニメ産業など、もう少し具体的な産業形態を表す言葉が必要ではないか。神楽坂に注目していただくのはありがたいが、1つの文化のようなものであり、具体的な産業に結びつきにくい。

新宿区は、手塚プロが高田馬場にあり専門学校も多いので、アニメ産業の潜在的なポテンシャルがある。伝統産業に結びつかなくとも、新しい産業を掘り起こし、新宿区が育てていく視点はきちんと位置づけたほうがよい。

先日、神楽坂の地区計画の説明会では、昔ながらの路地を残すまちづくりが議論となった。神楽坂では、夏目漱石など明治・大正時代の文学者が文芸活動を行っていたので、文学を含めた文化としてのまちを取り上げていくべきであろう。また、アニメ関連の専門学校も活かしていくべきだろう。印刷製本業は時代にそぐわなくなっている。染色産業も、このままの形では時代にそぐわなくなっているが、これまでの蓄積を活かすためにも、技術を発信していくという位置づけにしたい。

- ・委員から提案のあった の冒頭に「水辺と森」を出す提案は賛成である。
- ・ - 1には「文化」という表現が目立つが、文化の中に芸術が含まれているとすれば、「芸術」には国境がなく新宿だけの芸術はない、という前提を踏まえておかないと誤解される恐れがある。
 - 2 - 「災害に強いまちづくり」の「公共空間の防災機能の強化」に電線の地中化は必ず入れてほしい。
- ・ - 1 - 「参画協働のまちづくり手法の開発」の中で「住民主導による地区の個性を生かした地区計画によるまちづくり」とあるが、「ルールづくり」という言葉を入れてほしい。

【次回以降の議論に向けて】

本日のグループでの審議内容を踏まえて、このあと起草部会を開催し、次回に向けての情報を整理する。

(以上)